

環境への取り組みの歴史

	マネジメント部門	自動車部門	自動車以外の部門
1973年 8月		樹脂材料の材料表示規定制定(業界ガイドラインは1991年に決定)	
1985年10月			電動式塵芥収集車「EV405」を開発
1987年 2月		世界で初めて自動車用電子制御式無段変速機「スバル ECVT」を実用化、市場に導入	
1990年 8月	「環境問題改善対策プロジェクト」発足	全国スバル特約店にカーエアコン用フロンガス回収、再利用装置の設備を開始	
1991年 4月	「SEF 委員会」発足。Safety: 安全、Emission: 排出ガス、Fuel economy: 燃費		
10月	「リサイクル委員会」発足。(1997年に「リサイクル技術開発委員会」、1999年に「リサイクル推進委員会」に改称)	フレキシブル燃料エンジンを東京モーターショーにて発表	
1992年 4月	「環境安全技術部」発足		OHV エンジン搭載発電機3型式を発表(2KW、2.8KW、4.1KW)
5月		塗装済バンパーの内外装部品へのリサイクルに自動車業界初めての成功	
11月		特約店へのカーエアコン用フロンガス回収、再利用装置の配置を完了	
1993年 1月		物流会社と共同で、東京、神奈川県より使用済バンパーの回収を開始	
3月	「地球環境保護に関する取り組み計画」制定。「総合環境委員会」発足。「SEF 委員会」を発展させて「技術環境委員会」、「工場環境委員会」発足		
1994年 4月		カーエアコンの冷媒を CFC12 から HFC134a に切り替え完了	
1995年 1月			CARB 排出ガス規則対応汎用エンジン生産を開始
4月		電気自動車「サンバー EV」を発売	
6月		環境にやさしい新塗膜保護剤を開発。	
8月			低公害 CNG 塵芥収集車を納入開始
9月			全国初のゴミの貨物輸送のため、ゴミ輸送用コンテナ及びコンテナ輸送車両を川崎市に納入
10月		筒内噴射エンジン、ハイブリッド・カーを東京モーターショーにて発表	
1996年 2月		新塗膜剥離技術「ロール圧延法」を開発、実用化し、バンパーからバンパーへのリサイクルを開始	
4月	「地球環境に関する2000年計画」策定		
10月			ごみ有料化に対応した「コンテナ収集計量システム」を開発販売
1997年 7月	「環境総合推進室」発足		焼却灰溶融プラントを開発
9月			高層ビルゴミ分別搬送システム「ヒュー・ストーン」を初納入
1988年 2月	「使用済自動車リサイクルイニシアティブ・自主行動計画」策定		
4月	「環境方針」を策定		
6月	環境パンフレット「人と社会と地球の調和を目指して」を発行		
10月		自工会のシステムを活用した特定フロン(CFC12)の回収・破壊取り組みの全国展開終了	2サイクルエンジン代替のランマー用4サイクルOHVエンジンを発表(EHO9D)
11月	スバル・いすゞオートモーティブインク(SIA、米国)においてISO14001を認証取得		
1999年 3月	群馬製作所においてISO14001を認証取得		
5月	埼玉製作所においてISO14001を認証取得		
6月		ペットボトルの内装部品へのリサイクル	
7月	・宇都宮製作所・車両環境事業本部においてISO14001を認証取得 ・第1回関連企業環境問題連絡会議を開催		
10月	群馬製作所に「環境部長会」発足		
2000年 1月		生産工程で発生した塗装済バンパー廃材を「ブレオ」の量産バンパー材料に再利用開始	
3月	東京事業所の焼却炉を停止	使用済バンパー回収を東北地区にも拡大し、全国体制を構築	高層ビルゴミ分別搬送システム「ヒュー・ストーン」が平成11年度通産省環境立地局長賞を受賞
8月		新型「インプレッサ」発売、全モデルが低排出ガスの認定基準を達成	
9月	1999年度の環境保全活動の実績をまとめた環境報告書を発行		
2000年10月		廃車から回収した窓ガラスをグラスウール防音材にリサイクルを開始	

(注)鉄道車両及びバスについては「2003 環境報告書」58～59ページをご参照下さい。

	マネジメント部門	自動車部門	自動車以外の部門
11月			・スバル型風力発電システムを公開 ・低騒音新型塵芥収集車「LP0」型を発売
12月	群馬製作所矢島工場の焼却炉を停止		
2001年3月	群馬製作所でゼロエミッションを達成		
5月			ロビン汎用エンジン EX シリーズを発売、低排出ガス、低騒音化、低振動化を図る
6月	2000年度の環境保全の実績をまとめた環境報告書を発行		
9月	・宇都宮製作所の焼却炉を停止 ・埼玉製作所の焼却炉を停止		
10月		東京モーターショーに次世代ハイブリッドミニ「HM-01」を出展	
2002年1月			スバル小型風力発電システム平成13年度新工ネ大賞「資源エネルギー庁長賞」を受賞
2月		新型「フォレスター」を発売、全モデルが2010年度燃費基準を達成するとともに良・低排出ガス車(GLEV)に認定される	
3月	宇都宮製作所、埼玉製作所においてゼロエミッションを達成		
5月	「環境保全取り組み計画(2002年度～2006年度)」を公表	NEC・富士重工業の共同出資による自動車用電池開発会社を設立	
6月	「2002環境報告書」を発行		
7月		フロン引取・破壊に関わる業務を(財)自動車リサイクル促進センターに委託	
10月		「レガシィ B4CNG」(天然ガス自動車)を限定的に市場導入	
11月			航空機定期修理における無公害塗装剥離剤への転換について「防衛調達基盤整備協会賞」を受賞
2003年4月	埼玉製作所においてISO14001定期審査受審		「ASR 前処理分別システム」を開発
5月		・「レガシィ」をフルモデルチェンジし、「NEWレガシィ」を発売 ・2.0GTspec.Bを除く全モデルで2010年燃費基準を達成 ・2.0ℓ SOHCエンジン搭載車で平成12年基準排出ガス75%低減レベルを達成	「無公害塗装剥離剤の開発」が(社)日本航空技術協会の協会特別賞を受賞
6月	・「2003環境報告書」を発行 ・宇都宮製作所においてISO14001定期審査を受審		
7月	・六連星をコーポレートシンボルに設定 ・群馬製作所矢島工場にスバルビジターセンターを開設		(株)オギハラと共同開発の「焼却灰溶融炉」が(財)廃棄物研究財団の技術認定を取得
8月		・「レガシィ B4CNG」日本一周に挑戦 ・スバルモビリティ技術プレゼンテーション実施	
9月	東京事業所においてゼロエミッションを達成		
11月		「レガシィ」2003-2004日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞	
12月		・自動車部品の新加工技術「ハードブローチ工法」を開発 ・新型軽自動車スバル「R2」を発売。24.0km/ℓ(10-15モード)燃費を実現し(R)、平成12年基準排出ガス75%低減レベルを達成(Rとi)	
2004年1月	本社、東京事業所がISO14001認証取得		
5月			産機カンパニー(V型2気筒エンジン)がカミンズ社からサプライヤー・オブ・ザ・イヤー受賞
6月	「2004環境・社会報告書」を発行		
11月	身障者雇用優良事業所表彰受賞	・群馬製作所の塗料カスリサイクル工場が「資源循環技術・システム表彰」受賞 ・スバル「R2」2005年次RJCカー・オブ・ザ・イヤー特別賞ベスト軽乗用車受賞	
12月		福祉車両スバルトランスケアを「R1」および「インプレス」新設定、「R2」および「サンバー」に追加モデル設定	
2005年1月		自動車リサイクル法に対応した「スバル自動車リサイクルシステム」を稼働	
2月			宇都宮製作所において「天然ガスエンジンコジェネレーションシステム」稼働
3月	・部品センター(太田市)がISO14001取得(群馬製作所拡大認証) ・部品用品部門(さいたま市)がISO14001取得(本社拡大認証) ・企業の社会的責任に対する考え方を「CSR方針」として明確化	「レガシィ」世界累計生産台数300万台達成	
5月			新型塵芥収集車「フジマイティ LP71型シリーズ」販売開始
6月	富士重工業グループにおける「環境シンボルマーク」を制定		